

まなびで“きびる”プロジェクト

探究的な学び（総合的な探究の時間）における評価規準作成の参考資料

No.1（市の活性化イベント）

1 はじめに

やまぐち教育先導研究室では、学習指導要領解説（文部科学省）や「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（国立教育政策研究所教育課程研究センター）を参考に、まなびで“きびる”プロジェクトで開発した教育プログラム（以下、教育プログラムという）を活用した総合的な探究の時間における評価規準についての資料を作成しました。各学校で総合的な探究の時間を担当する先生方の授業や評価の計画の参考資料として活用してもらいたいと考えています。

2 評価規準とは

総合的な探究の時間で身に付けさせたい資質・能力が着実に身に付くよう指導者は指導を改善し、学習者は学びを改善する必要があります（いわゆる指導と評価の一体化）。改善点については、各学校で作成した目標に対応した評価規準と現状とを比較することで把握するとよいでしょう。

学習指導要領（平成30年告示）では、総合的な探究の時間の目標及び内容は資質・能力の三つの柱（「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」）で整理され、学習評価については、三つの柱に対応した3観点（知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度）の評価規準が必要です。

3 教育プログラムとは

教育プログラムとは、探究的な学びにおける、課題発見・解決のための調査方法やアイデア発想のコツ及び、解決策を伝えるためのプレゼンテーションの技を知ることができる解決・思考ツールです。総合的な探究（学習）の時間のほか、各教科で活用することで、児童・生徒の思考を深めることが期待できます。また、教育プログラムを使って指導することで、総合的な探究（学習）の時間等の探究的な学びについて、初めて指導する方も効果的に指導できるツールとして活用できます。

4 参考資料（想定事例）

- (1) 学校名：H高等学校（普通科）
- (2) 授業：2学年 総合的な探究の時間
- (3) 単元名：H市を活性化させるために効果的なイベントを立案しよう（35時間）
- (4) 単元の目標：

H市を活性化させるイベントを考える活動を通してア、環境や観光、産業や教育など様々な観点が地域を形作っていることを理解しイ、情報を適切に収集し、分析や考察するとともにウ、自ら問題意識をもって持続可能な地域社会づくりに貢献しようとする事ができるエようにする。

※目標を構成する要素

- ア 探究課題を踏まえた単元において中心となる学習対象や学習内容
- イ 育成をめざす資質・能力のうち、単元において重視する「知識及び技能」
- ウ 育成をめざす資質・能力のうち、単元において重視する「思考力・判断力・表現力等」
- エ 育成をめざす資質・能力のうち、単元において重視する「学びに向かう力、人間性等」

(5) 単元の評価規準

育成をめざす資質・能力の
三つの柱に対応

単元名	評価の観点		
H市を活性化させるために効果的なイベントを立案しよう	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<p>① 持続可能な地域社会の実現に向けて、SDGsの観点やH市の現状や課題と、現在なされている対策について、理解している。</p> <p>② H市の活性化に向けて、目的に応じて調査対象や調査方法を設定し、内容や表現を吟味して適切に実施している。</p> <p>③ 持続可能なH市の実現をめざすためには、環境や観光、教育など様々な観点を踏まえる必要があることや、たくさんの人々が関わっていることを理解するとともに、探究を通して自らも社会を形づくる一員であるということに気付いている。</p>	<p>① 持続可能な地域社会の実現をめざして、H市を活性化するために、その目的を理解して地域の現状や課題を把握し、その課題解決に向けた企画を設定している。</p> <p>② インターネットや書籍の活用に加え、インタビューなどのフィールドワークも取り入れながら様々な情報を適切に収集している。</p> <p>③ H市活性化のためのイベント企画が説得力のあるものになるよう、収集した複数の情報を効果的に組み合わせ活用している。</p> <p>④ 相手や目的、意図に応じて論理的にまとめ、より伝わりやすくなるよう、グラフや発表ツールを用いたり、発表の仕方を工夫したりするなど、表現を吟味している。</p>	<p>① 講話やインタビュー、グループでの協働を通して、自分の個性や特徴を理解したうえで、多様な意見を尊重しようとしている。</p> <p>② 自らの問題意識をもとに、H市や社会について考え、他者と協働的に課題を解決しようとしている。</p> <p>③ H市の地域社会について考えることを通して、自己の在り方、生き方を考え、社会の形成者の一員として持続可能な社会づくりに貢献しようとしている。</p>

- ①概念的な知識の獲得
- ②自在に活用することが可能な技能の獲得
- ③探究の意義や価値の理解

- ①課題の設定
- ②情報の収集
- ③整理・分析
- ④まとめ・表現

- ①自己理解・他者理解
- ②主体性・協働性
- ③将来展望・社会参画

(6) 指導と評価の計画 (全 35 時間)

㊦その場面での活用により活動の質の向上が期待できる教育プログラム

小単元名 (時数)	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
1 持続可能な地域社会の実現をめざして、H市の課題を整理・理解しよう (10)	<p>㊦アイデア 100 本ノック</p> <ul style="list-style-type: none"> H市の課題点を、話合いや各種資料、1年次に受講した市役所各部署の講演内容などをもとに整理し、理解を深める。 H市の課題点のうち、持続可能な地域社会の実現をめざすために最も注目すべきものを挙げ、今後の活動につなげる。 <p>具体的事例①「知識・技能①」</p>	①		①	<ul style="list-style-type: none"> 話合い記録シート 提出物
2 H市を活性化させるために、地域の課題点を踏まえてイベントを立案しよう (15)	<p>㊦クリエイティブ・リサーチ</p> <ul style="list-style-type: none"> インターネットや書籍、インタビュー等により情報を収集する。 	②	②		<ul style="list-style-type: none"> 話合い記録シート 情報整理シート 提出物
	<p>㊦誰でもデザイナーになれる授業</p> <ul style="list-style-type: none"> 現状の分析や考察をしたり、企画を説得力のあるものにしたりする。 <p>具体的事例②「思考・判断・表現③」</p>		① ③	②	
3 グループの企画を発表し、実際の社会との関わり方を考えよう (10)	<p>㊦中身のいらないプレゼンの授業</p> <ul style="list-style-type: none"> 複数の情報をもとに考えたグループの企画を、グラフや発表ツールを用いたり、発表の仕方を工夫したりして分かりやすく伝える。 <p>具体的事例③「主体的に学習に取り組む態度②」</p>			④ ②	<ul style="list-style-type: none"> 発表 相互評価表および自己評価表 提出物
	<ul style="list-style-type: none"> H市役所等、関係者の方からの指導助言をもとに、自らと実際の社会との関わりについて考えを深める。 	③		③	

各観点を見取る場面を設定する。一度に多くの観点を見取るとは難しいので、確実に見取ることができるよう計画すること。

(7) 観点別学習状況の評価の進め方

○ **具体的事例①「知識・技能①」**

- ・ 評価の場面

H市が持続可能な地域社会の実現をめざすために注目すべき課題点を、話し合いや各種資料、1年次の講演会の内容等をもとにまとめ、今後の探究活動の方針を定めた。ここでは、話し合いの過程や結果を記録した「話し合い記録シート」を「知識・技能①」の主たる評価資料とした。

- ・ 学習活動における期待する生徒の姿と評価方法

【評価規準「知識・技能①」】

持続可能な地域社会の実現に向けて、SDGsの観点を踏まえ、H市の現状や課題と、現在なされている対策について、理解している。

【期待する生徒の姿】

話し合いや資料整理を通して、地域や社会が多くの領域によって構成されていることに気付き、理解を深めている。現状と課題を考える際に、生徒の主観だけでなく、客観的な資料やデータなどをもとに考えを深めることができている。今後の探究活動につながる「最も注目すべき課題点」を、SDGsの観点をもとに定めることができている。

指導者は生徒の期待する姿をめざし、生徒と積極的に関わりながら、適宜アドバイスをするなど指導していきましょう。

【見取る方法】

話し合い記録シートに記述された現状と課題点、主観だけでなく客観的なデータなどにもとづきSDGsの観点によるものかを見取ります。

【コラム】教育プログラムの活用場面

この小単元は、学校の立地する市の問題に向き合い、それを解決する課題の立案に向けて、これまで知り得た情報を整理し、様々な視点から理解を深める中で、注目すべき課題を絞っていく小単元となる。そのため、問題や課題を様々な視点で捉えることが、今後の学びを高度化させる上で必要となる。

そこで、「アイデア100本ノック」を授業で実施し、「切り口」を変えることによるアイデアの大量発想法を体験することにより、生徒が課題設定に向けて、より多くの視点で考えを深めることを促す可能性がある。

○ **具体的事例②「思考・判断・表現③」**

- ・ 評価の場面

前小単元で収集した情報をもとに分析や考察を深め、H市活性化のためのイベントを立案し、企画の内容や重要点をより具体的に話し合った。ここでは、収集した情報を整理し考察を深めた「情報整理シート」を「思考・判断・表現③」の主たる評価資料とした。

- ・ 学習活動における期待する生徒の姿と評価方法

【評価規準「思考・判断・表現③」】

H市活性化のためのイベント企画が説得力のあるものになるよう、収集した複数の情報を効果的に組み合わせて活用している。

【期待する生徒の姿】

収集した複数の情報を関連付けて、企画立案の根拠にしたり、工夫のヒントにしたりして、適切に活用している。自分たちの企画に説得力をもたせるために、情報やデータをもとにすることを意識しながら話し合いを進め、企画の内容を充実させている。

指導者は生徒の期待する姿をめざし、生徒と積極的に関わりながら、適宜アドバイスをするなど指導していきましょう。

【見取る方法】

「情報整理シート」の記述が収集した情報を整理し、組み合わせ、根拠や内容を明確にしているか、話し合いにより説得力が高まったかを見取ります。

○ **具体的事例③「主体的に学習に取り組む態度②」**

- ・ 評価の場面

H市役所の方に向けた発表を見据え、グラフや発表ツールを用いたり、発表の仕方を工夫したりして、グループで立案した企画の魅力が相手により伝わるように、自分たち自身も地域や社会の一員であることの自覚をもって協働的に発表準備に取り組んだ。ここでは、発表の流れと工夫点を併記した「発表原稿」を「主体的に学習に取り組む態度②」の主たる評価資料とした。

なお、「相互評価表」および「自己評価表」も協働性についての評価の参考とした。

- ・ 学習活動における期待する生徒の姿と評価方法

【評価規準「主体的に学習に取り組む態度②」】

自らの問題意識をもとに、H市や社会について考え、他者と協働的に課題を解決しようとしている。

【期待する生徒の姿】

これまでの活動の集大成として、主体的・対話的に発表の準備を行っている。また、当事者意識をもって課題と向き合い、課題解決に向けたイベントを他者と協働して立案し、その企画の魅力や工夫点が伝わりやすいように発表の仕方を考えることができている。

さらに、「相互評価表」および「自己評価表」により、他者の学びや自らの学びを客観的に評価できている。

指導者は生徒の期待する姿をめざし、生徒と積極的に関わりながら、適宜アドバイスをするなど指導していきましょう。

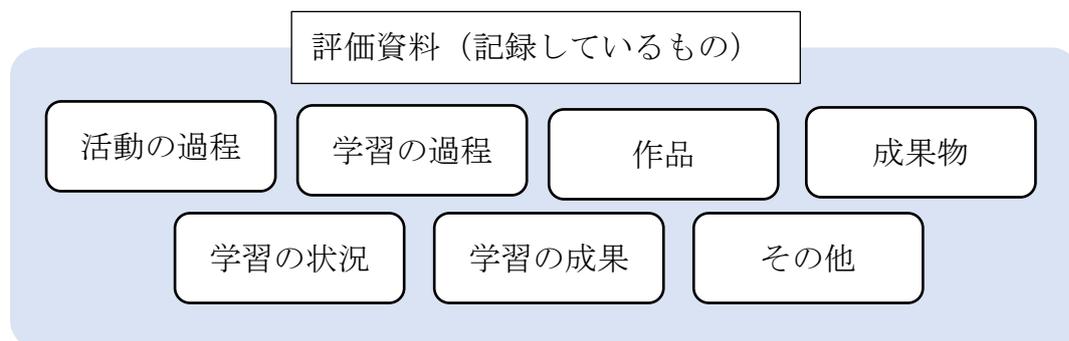
【見取る方法】

発表原稿に記述された課題が、当事者意識をもって表現され、発表の工夫が他者を意識したものになったかということを見取ります。また、発表の自己評価や他者評価の記録も評価の参考とする。

5 単元計画までの準備

- ① 学校教育目標を確認する。
- ② 総合的な探究の時間の目標（以下、第1の目標）を確認する。
- ③ 学校教育目標と第1の目標を踏まえ、各学校において定める目標（以下、第2の目標）を作成する。
- ④ 小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童・生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）（以下、改善等通知）を確認する。
- ⑤ 第2の目標と改善等通知を踏まえ、学校において定めた総合的な探究の時間の評価の観点の趣旨を作成する。
- ⑥ 各学校で内容のまとめり（目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題の解決を通して育成をめざす具体的な資質・能力（三つの柱））を作成する。
- ⑦ 内容のまとめりごとの評価規準（3観点）を作成する。
- ⑧ 内容のまとめりごとの評価規準の考え方を踏まえ、単元の目標（三つの柱による）を作成する。
- ⑨ 単元の評価規準（3観点）を作成する。
- ⑩ 指導と評価の計画を作成する。

6 評価の総括のイメージ



指導要録

学習活動	観点	評価
単元名等	知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	生徒にどのような力が身に付いたかを文章で端的に記述

参考資料

- ・文部科学省、『高等学校学習指導要領（平成30年度告示）解説 総合的な探究の時間編』，学校図書株式会社
- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター、『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【高等学校総合的な探究の時間】』，株式会社東洋館出版社